

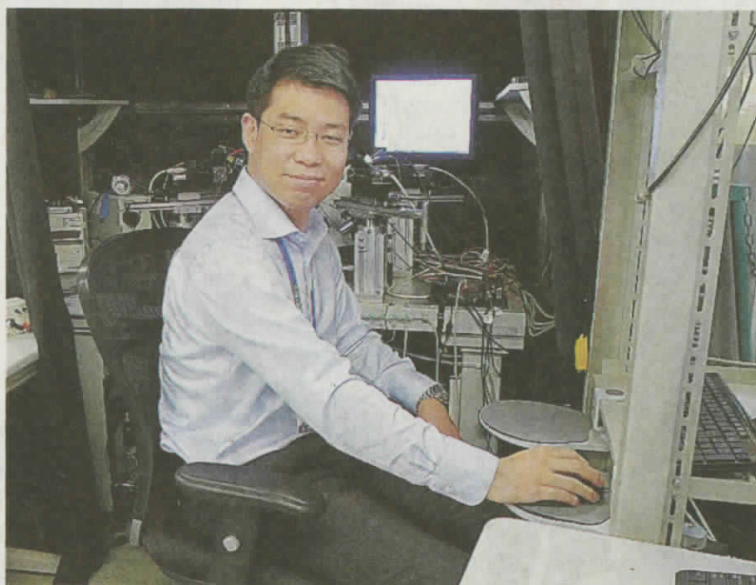
先端人 好き嫌い決める神経探る

「好き」とか「嫌い」とか、感情が生まれる時、脳神経ではどのようなことが起きているのか。高校生のころからの疑問の解明に取り組んでいる。

夜行性のネズミは、「視覚」より口ひげなどの「触覚」を重視する。ツルツルの床より少しザラザラを好む。触り心地は、長さ7ミリのコットン生地が好きなよう。でも、「触覚が脳の中でどう働いて気持ちよさにつながるのか、まだよく分かっていないんです」と話す。

脳への興味は、受験勉強から生まれた。好きな音楽を聴きながら勉強していると、体がリズムをとっていた。なぜ勝手に体が動くのか、生物の教科書を読んだが書かれていない。いろいろ調べ、「音楽にせよ食べ物にせよ、好きか

藤田医科大学教授 山下 貴之さん (44) 神経生理学



1977年、兵庫県出身。東京大大学院を修了後、スイス連邦工科大ローザンヌ校研究員、名古屋大准教授などを経て、2020年から現職。9カ月の長男は顔をなでると喜ぶという。「息子とじゃれあっていると、研究のアイデアが浮かんできますね」

嫌いかを決めているのは脳だと思いましたが。大学では脳科学の研究室に進んだ。技師コースの学生と話している中でアイデアが生まれました。

実験手法も開発する。7月には、X線によってマウスに触らずに脳神経を活性化させる手法を開発したと科学誌に発表した。X線に反応する物質を利用した手法で、放射線「『好き嫌い』を決めている神経回路の働きをコントロールできるようにしたい。その結果が神経疾患などの治療につながるばうれしい」

(木村俊介)

承認番号 21-2989, 22-2570

朝日新聞社に無断で転載することを禁じる